

## 環境・農水常任委員会 県内行政調査

1 調査日 令和2年10月15日（木）

### 2 調査の概要

#### (1) 宮城定右衛門氏苗畑（栗東市荒張）

本県の森林は、戦後造林された人工林を中心に利用可能な時期を迎えており、今後、森林資源の循環利用の観点からも主伐、再造林を進めることが重要となっており、優良な林業種苗の供給が不可欠である。

また、森林の整備に数十年の長期間を要し、容易には植え替えができないことから、森林の整備の成否は苗木そのものの素質に委ねられる部分が大きく、その意味でも優良な林業種苗の供給は非常に重要である。

こうした中、宮城氏は滋賀県山林種苗協同組合の代表理事を務め、県内における苗木生産の第一人者として、コンテナ苗などの新たな苗木生産技術で優良な苗木の増産に取り組んでおり、令和4年春に本県で開催される全国植樹祭で使用される緑化苗木の生産も行っていることから、宮城氏の苗畑を訪問し、その取組について調査を行った。



#### (2) 金勝生産森林組合（会場：栗東市立自然体験学習センター「森の未来館」（栗東市観音寺））

金勝生産森林組合においては、良質なヒノキ材を中心に、毎年約1,000m<sup>3</sup>の木材を市場に出荷して計画的で安定的な林業経営を行うとともに、企業との連携による様々な取組を行っている。

平成21年10月には、栗東市商工会と琵琶湖森林づくりパートナー協定を締結し、地元企業と森林整備を行うとともに、平成27年度から県のCO<sub>2</sub>吸収認証制度を活用した企業のイメージアップにつなげる取組を行ってきた。また、平成28年8月には、県内森林所有者として初めてSGEC森林認証を取得するとともに、平成29年3月には、滋賀県で初めてJ-クレジットの認定を取得し、CO<sub>2</sub>吸収量をクレジット化することで、企業とのカーボンオフセットの取組を進めるなど、持続可能な森林経営を推進している。

さらに、子供たちをはじめ、多くの人が集まり、楽しめる森林づくりを目指し、自然共生型アウトドアパーク「フォレストアドベンチャー」の誘致に尽力し、その結果、滋賀県のみならず近隣府県から年間1万人を超える人々が地元金勝山を訪れるようになり、栗東市の新たな観光スポットとなっている。また、令和2年には金勝地区が「山の健康」モデル地域に選定され、一般社団法人栗東市観光協会と連携し、マウンテンバイクコース設置などの森林空間を積極的に利用する取組も進めていることから、こうした金勝生産森林組合の先進的な取組について調査を行った。



### (3) 栗東市立自然体験学習センター「森の未来館」(栗東市観音寺)

本県では、琵琶湖森林づくり基本計画において、さまざまな世代への森林環境学習が「次代の森林を支える人づくり」として位置づけられている。

また、地球温暖化をはじめとする環境問題が人類共通の課題となり、環境との調和や森林資源の循環利用を進める観点から、森林環境学習を推進していくことが重要となっている。こうしたことから、次代を担う子どもたちが、森林への理解と関心を深めるとともに、人と豊かにかかわる力をはぐくむため、学校教育の一環として、森林環境学習施設およびその周辺森林(「やまのこ」受入施設)で体験型の学習「やまのこ」事業を平成19年度から実施しており、県内の小学校4年生が参加していることから、受入施設の一つである栗東市立自然体験学習センター「森の未来館」において、森林環境学習「やまのこ」事業の活動について調査を行った。

